

**アントレプレナーシップ実習「COMMUNITY CAMPUS
愛知県立大学／愛知県立芸術大学 Entrepreneurship Foundation」プログラム**

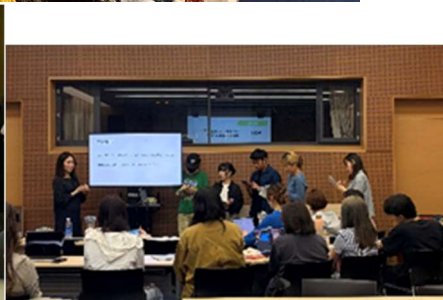
1. 開催日時：令和8（2026）年6月8日（月）～12日（金） 5～7時限（16：10～21：00）
2. 会 場：愛知県立大学長久手キャンパス K棟 多目的ホール
3. 講 師：春田 登紀雄 先生（愛知県立芸術大学美術学部 教授）
森田 久司 先生（愛知県立大学 学術研究情報センター長、外国語学部 教授）
一般社団法人 ベンチャー・カフェ東京
4. 参加者数：37名（うち県大12名、芸大25名）

【概 要】

本プログラムは、愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻の専門科目「デザイン実技 IIA」の授業内において、例年6月頃に”アントレプレナー・ウィーク”と題して、外部講師を招聘したアントレプレナーシップ教育を実施しており、2026年度は2大学連携事業の一環として、愛知県立芸術大学および愛知県立大学の学生を対象に、キャンパスや学部の垣根を越えたチーム編成によるアントレプレナーシップ実習として実施された。なお、愛知県立大学においては、教養教育科目「ソーシャル・アクティビティ」の対象活動として認定されており、要件を満たした参加学生に単位を付与することとしている。

参加学生は、約1週間にわたり共通テーマに取り組みながら、多様なバックグラウンドを持つ学生との協働を通じて起業機会の発見と事業プランの構想を体験し、自己理解、ビジネスモデルへの理解、行動力・協働力を深めることで、価値創出に向けた起業家的な思考・行動様式を身につけた。

【会場の様子】



【チラシ】

教養教育科目「ソーシャル・アクティビティ」
単位認定対象実習 参加者募集！

Entrepreneurship Foundation 2026
COMMUNITY CAMPUS 愛知県立大学／愛知県立芸術大学

アントレプレナーシップ実習

6月8日（月） - 12日（金）
5日間（5・6・7限） **定員 15名**

場所：愛知県立大学 長久手C 多目的ホール

「やってみよう」を「やってみた」に
アントレプレナーシップ実習は、アイデアを「カタチ」にする実践型授業です。チームで課題を
見つめ、アイデアを考案、実際に試しながら、新しい価値を生み出すプロセスを体験します。
「やってみよう」として、課題解決・実行力・チームワークを身につけます。

4つの魅力

多様性あふれる仲間と出会う
愛知県立芸術大学の学生や、留学生と一緒に
学べる貴重な機会です。
異なる価値観が、あなたの視野を広げます。

教養教育科目として単位認定
実習を終了した学部生は「ソーシャル・アク
ティビティ」科目として1単位認定します。
楽しみながら学び、単位も取得できる一石
二鳥のプログラムです。

最前線のプロから学ぶ
アントレプレナーシップ教育で有名な
「ベンチャーカフェ・東京」から特別講師を
招聘します！
実践的なメソッドを体験できます。

誰でもウェルカム！
起業の知識や英語力は「不要」です。
留学生も、最低限のコミュニケーションが取
れる日本語力があれば大歓迎！
(International students welcome!)

お申込み 応募期間：4月6日（月）～5月8日（金）
こちらのQRコードからお申し込みください ▶

お問合せ 愛知県立大学 研究支援・地域連携課
TEL 0561-76-8840
MAIL kenny@shu.ac.jp -pu.ac.jp

1. 成果の集大成：Demo Day（最終発表会）

5日間のプログラムの締めくくりとして、全8チームによるピッチ（事業計画発表）を実施した。学外の専門家をコメンテーターに迎え、厳しい質疑応答を通じて、自分たちのアイデアが社会でどう評価されるかを肌で感じる場となりました。



【入賞チームと事業案の紹介】

「en.（エン）」：一人暮らしの学生と親を繋ぐ、生存確認機能付きの仕送りアプリ。親の安心と子のプライバシーを両立させる仕組みを提案。



「HUGLE（ハグポッケ）」：

不安やパニックを感じる時に「抱きしめる」ことで安心感を得られる、深部圧刺激を利用した特殊なリュックサック。



「ぬきうち Communication」：

日本にしながら留学体験ができる、街中で英語話者に話しかけられる実践型の英語学習プログラム

2. 価値創造へのプロセス：5日間の軌跡

最終日のピッチに至るまで、学生たちはキャンパスや学部の垣根を越え、不確実な課題に対して「まず動く」姿勢を貫きました。

DAY1～2：マインドセットと顧客理解「Action Trumps Everything（行動が全てに勝る）」という教えのもと、インタビューなどを通じて徹底的に顧客の課題を深掘りしました。

DAY3～4：ビジネスモデルの構築 リーンキャンパス等のフレームワークを用い、自分たちの「欲望（やりたいこと）」をサステナブルな事業へと落とし込む議論を重ねました。

3. 受講生の、生の声（リフレクション）

多様なバックグラウンドを持つ仲間との協働は、学生たちに大きな意識変容をもたらしました。

「学外の方と一つの目標に向かって動くのは初めての経験。バックグラウンドの違いを痛感する貴重な機会となった」「柔軟に受け入れる精神の大切さを学んだ」 「メンバーの意見を取り入れることで、固まっていた考えがほぐれ、面白い方向へ持っていくことができた。とりあえず手を動かすことで成長を感じられた」 「新たな視点、選択肢を得られた」 「起業は考えたこともなかったが、プログラムを通じて新たな視点を取り入れることができた。チームで課題を進める面白さを知った」

